

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 066	提案機関名 森林再生課
要望問題名 下刈りに係る低コスト省力化について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 造林事業における下刈りは、雑草木からの被圧を防止し、併せて雑草木の再生力を奪うため、夏季に行う作業である。また、植栽木が雑草木に被圧されない大きさになるまで（概ね5年以上）継続して行う必要がある。 林野庁では、夏季の下刈りが重労働となっていることから加算措置をすることとなり、「森林環境保全整備事業における標準単価の設定等について」林野庁整備部整備課長通知は、令和7年3月31日の改正において、熱中症対策として夏季の下刈りについて上乘せ支援の要件が追記された。 上述のとおり、下刈りの必要性に対する労働安全の観点等から、造林事業だけでなく、県としても今後の植替えを進めるにあたり課題となっているため、シカの採食圧・植栽密度・施工方法などの違いによる下刈りの低コスト省力化について実証研究を行う。 (想定される検討条件) 対象地は、シカの採食圧のある地域とシカの採食圧の（少）ない地域 面積は、1サンプルあたり100㎡とする。 植栽密度は、「2,000本/ha」・「2,500本/ha」・「3,000本/ha」 施工方法は、「筋刈り」・「坪刈り」・「マルチング（被覆材）」	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 追加で条件付けできるのであれば、植生保護柵の設置の有無での場合分けもお願いしたい。	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 森林の適正配置と針葉樹人工林の低コスト育林技術に関する研究			
対応の内容等 下刈りに係る低コスト省力化は拡大造林期から各地で多くの取組・試験が行われてきました。近年も主伐再造林が進む九州を中心に、下刈り回数の削減や大苗植栽による下刈り省略の試験が行われ、一定の成果が出ています。ただし、地域によって雑草木の種類や成長量が異なりかつ生産目標も異なるため、既往成果の適用には慎重さが求められます。そこで、本県においては既往成果を参考にして試験設計を立て、現地適応化試験を行います。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			